

# ラッカセイ\*1

(野菜類、豆類(種実)の登録農薬も使用できる。豆類(未成熟)の登録農薬は使用不可)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	汚斑病	褐斑病	茎腐病	黒渋病	白絹病	さび病	そうか病	菌核病	灰色かび病	アブラムシ類	コガネムシ類	ハダニ類
硫黄粉剤50	M2		-	-	◎		◎									
硫黄粉剤80	M2		-	-	◎		◎									
トップジンM水㊦	1		7	4	◎	◎	◎				◎		◎			
トップジンM粉DL㊦	1		7	4	◎											
ベンレート水㊧	1		7	4	◎	◎	◎				◎					
アフェットFL	7		1	3	◎			◎	◎		◎	◎				
フロンスайд粉	29		45	1				◎								
スミレックス水	2		21	4	◎								◎			
ロブラール水	2		21	3									◎			
ジマンダイセン水	M3		14	3		◎					◎					
ダコニール1000FL	M5		14	4		◎										
オンコル粒5	1A		*b	1												幼
ダイアジノンSLゾル	1B		*a	1												幼
アグロスリン乳	3A	劇	1	3										◎		
フォース粒	3A	劇	*b	1												幼
粘着くん液	-		1	-												◎

㊦:チオファネートメチル含有剤 ㊧:ペニシリン含有剤 ㊦を使用した場合には同じ作での㊧は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理および塗布処理を除く、詳細はP. 857参照)。

\*1:ラッカセイ…なんきんまめ、ピーナッツを含む

\*a:播種前 \*b:播種時

幼:幼虫

ラ  
ツ  
カ  
セ  
イ

## ラッカセイ

(野菜類、豆類(種実)の登録農薬も使用できる。豆類(未成熟)の登録農薬は使用不可)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
褐斑病	生育期	1. 連作をさける。 2. 発生初期から次の薬剤のいずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤 400～600倍 ダコニール1000(FL) 500倍 トップジンM水和剤㊦ 1500～2000倍 ベンレート水和剤㊧ 2000～3000倍	㊦:チファネートチル含有剤 ㊧:ペニシル含有剤 ㊦を使用した場合には同じ作での㊧は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理及び塗布処理を除く、詳細はp. 857参照)。
黒渋病	生育期	1. 連作をさける。 2. 発生初期から定期的に次の薬剤のいずれかを散布する。 硫黄粉剤80 3kg/10 a トップジンM水和剤㊦ 1500～2000倍	
そうか病	生育期	1. 発病畑には連作しない。 2. 発生初期から次の薬剤のいずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤 400～600倍 トップジンM水和剤㊦ 1500倍 ベンレート水和剤㊧ 2000倍	本病による減収は激しいので、初期の防除を徹底する。
アブラムシ類	発生期	・次の薬剤を散布する。 スミチオン乳剤* 1000～2000倍 アグロスリン乳剤 2000倍	* 豆類(種実)での登録
ハスモンヨトウ	発生期	・幼虫の若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。 ゼンターリ顆粒水和剤* 1000倍 トレボン乳剤* 1000倍	* 豆類(種実)での登録
コガネムシ類幼虫	播種時	・次の薬剤のいずれかを全面土壌混和してから播種する。 オンコル粒剤5 9kg/10 a ダイアジノンSLゾル 50倍(1000/10 a) フォース粒剤△ 9kg/10 a	△ 播溝土壌混和又は全面土壌混和
ヒョウタンゾウムシ類	発生期	1. イネ科作物を輪作する。 2. 成虫を捕殺する。	サビイロヒョウタンゾウムシ、トビイロヒョウタンゾウムシなど。
ハダニ類	発生初期	・発生が認められたら高密度になる前に次の薬剤を5～7日おきに連続散布する。 粘着くん液剤△ 100倍(150～3000/10 a)	△ 本剤は残効性がない。
センチュウ類	作付前	・土壌消毒をする(土壌消毒の項参照)。	